

〈特集：保健所はいま〉

新潟県長岡保健所より

田口 忠男（新潟県長岡保健所 技術次長）

はじめに

長岡保健所は新潟県の中央に位置し、管内は交通及び商工業の発達した長岡市を中心に繊維工業の町一栃尾市、農業と観光の三島郡や錦鯉の里一山古志村等、2市5町2村からなる管内人口27万人の基幹保健所です。

私がこの保健所に転勤したのは平成元年4月でしたが、この年は新潟県が実施した保健所の再編整備後の新体制がスタートした記念すべき年でもありました。そこでこの2年間の体験をふまえ、保健所の現状や課題について2～3述べてみたい。

現 状

まず第一に、県が実施した保健所の再編整備についてであります。

再編以前の状況は、栃尾市を所管する栃尾保健所（管内人口28000人）長岡市他1町1村を所管する長岡保健所（管内人口203000人）、並びに三島郡を所管する与板保健所（管内人口41500人）でありました。

ではなぜ統合の必要があったのだろうか。県の再編整備計画の中では、その必要性を

1. 人口の高齢化
2. 疾病構造の変化
3. 県民ニーズの多様化等、これ等の需要に対応するためとしている。

それでは、再編以前の各保健所ではこれ等の需要に対応できなかったのだろうか。ここが一つのポイントとなる。

問 題 点

各保健所に配置された職種別の職員数は下記のとおりである。

職員はそれぞれの立場で精一杯の努力をしてきたことは言うまでもないが、おのずと限界があったと思う。特に多様化した県民ニーズに応えるには、いかにも戦力不足といわざるを得ない。しからば、戦力アップのための人員増をという解決策も無いではないが、いか

各保健所の職種別職員数

所 名	医 師	保健婦	栄養士	診療放射線技師	精神衛生相談員	臨床検査技師	薬剤師
栃 尾	0	2	0	0	0	0	0
長 岡	1	5	2	2	1	2	6
与 板	0	4	1	1	1	1	0
長岡(新)	1	11	3	3	3	4	7

所 名	理学療法士	獣医師	食・環境監視員	公害	事務他	計
栃 尾	0	1	0	0	9	12
長 岡	0	4	1	2	26	52
与 板	0	1	1	0	11	21
長岡(新)	1	5	3	4	28	72

（兼務職員を除く）

にも短終的に過ぎる。

そこで分散する職員を集中化し、時代が要求するニーズに応えるため、県は保健所の再編に取り組んだのだと判断している。このことは、与えられた人と予算を効率的に最大の行政効果を上げるという見地から当を得た決断であったと考えている。

それでは、新体制の長岡保健所は期待される機関として脱皮できたのだろうか… 現実はあるに簡単なものではないようだ。

対 策

ここで当所が実施した再編整備関連の新規事業について紹介する。

再編整備関連事業

1. 移動保健所事業

- (1) 移動総合相談—ヘルスアップ相談会、食品、公害廃棄物等の相談
- (2) 成人移動相談—住宅ボランティア養成事業、看護相談

- (3) 母子相談—療育相談、移動はみがき教室
- (4) 乳房相談
- (5) 重点地区セルフケア相談—健康を楽しむ会、ねたきり予防教室、健康教室

2. テレフォン健康相談事業

- (1) 日中の健康相談
- (2) 夜間のダイヤルサービス

3. さわやかリビング推進運動（イベント等）

- (1) 食品衛生今昔物語（平成元年度）
- (2) ちびっこ&ワンワン使節団（平成2年度）

4. 環境衛生相談室事業

平成元年度4月から2地区（枋尾・与板）の食品衛生協会事務局に週1～2回保健所職員が出張し、許認可関連手続の相談、並びに申請書等の収受に当る。

これ等の事業は、全て当面は保健所廃止地区住民に対する行政サービスの低下を防止するための施策であると同時に、本来は新生長岡保健所のメイン事業となるべき重要な事業でもあります。したがって、我々所員はこれ等の事業推進に全力投球をしたことは当然である。

しかし、従前からの継続事業や、地域住民はもとより関係市町村からの要望に応えながらこれ等を実施するに当って、職員間に相当の軋轢があったことも事実である。

今後の方向

役所の常として、新規事業を取り入れることに対する抵抗よりも事業の見直しや一部廃止に対する抵抗が大きいことはやむを得ない事であるが、地域の実状の差こそあれ、今、保健所が抱える業務の見直し、即ち本当に必要な仕事、保健所でなければできない仕事は何か等、本気で取り組む時期がきている。

幸い厚生省も県環境保健部も、ここ2～3年、新しい発想に基づく新規事業をどんどん取り入れる時代になってきた。しかし、このことに対する保健所の対応が一步間違えば、必ずや猫の目行政のそしりを免れない。

当所の現状でも各課各係が目先の業務に追われ、各係や各課の目的、ひいては所全体の目標が見えていな

いと言うことである。「保健所ってなに…」、「地域保健ってなに…」こんな素朴な疑問にさえ答えられないのが自分自身の正直な告白である。幸い当所では今年度、地域保健医療計画の策定に着手した。このことは否応なしに課や職種を越え、全所員があげて取り組まざるを得ない状況に追い込まれた。そして結果的には所員全体のチームワークを醸成するうえで大きな効果があった。

また策定に当っては地域特性を加味するため、関係市町村や各種の団体、医療施設等から選出された25名の策定専門委員宅を保健所の実行委員が意見や要望を聴取するため訪問したが、この作業過程で保健所のなすべきことや地域住民の要望が浮き彫りにされ、結果的に保健所の目的、目標が腑気ながら見えてきた感があり、このことは予期しなかったこととは言え、我々所員にとっては計画策定と言う本来の目的以上に手にした大きな成果であった。

いずれにしても、保健所活性化が叫ばれて久しい今日、本当に保健所は脱皮できるのだろうか。他県の現状はともかく、私たちの新潟県では、保健所の再編整備という思いきった外科的処置に踏み切ったが、この新体制の保健所が地域の住民から受け入れられ、評価を得るためには全て我々所員の努力にかかっている。

幸い職員にはまだまだ仕事に対する意欲は十分残っている。また、それぞれの業務をそつなくこなすという技量も兼ね備えている。もし足りないものがあるとするなら、ますます複雑化するこれ等業務の調整、特に関係機関業務との整合性を図りながら保健所の目的に向かって業務を展開するための調整役（コーディネーター）の育成であろう。

その意味で当所には、平成元年4月から企画調整係が誕生したので、この係を柱に調整業務を開始したが、その一部を紹介する。原則的には毎月開催される課長会議の中で所全体の業務調整を実施しているが、これとは別に各課から選出された委員による業務検討委員会を毎月1回開催し、保健所の活性化について議題を決めて議論を続けてきた。

その中で、基本的な問題点として、地域保健課等が所管する対人サービス業務を担当する者と、衛生課等が所管する対物サービス業務を担当する者との間の目的意識のちがいが話題となった。しかし、当所の目的で

ある「健康で快適な地域社会を目指して」に向かって各種の業務を展開していくのだという共通認識は大きく醸成された。この2月に、業務検討委員会が中心となって保健所活性化のための講演会を開催したが、その中での講師の話。

「犬が公園内をうろついている。危険だから早く捕獲をしてもらいたい。」旨、住民から保健所に電話があった。当然、保健所では速やかに対応したが、この業務に対する評価はどうか、という我々に対する問題提起があった。結論から言えば、公園と言う場所を考えた場合、子供や老人の憩いの場であり、現在ではジョギング等、健康づくりの大切な場ともなっている事から、住民が安心して利用するため犬の捕獲であると考えたら、この業務も立派に地域保健活動に貢献していると位置づけていた。聞いてしまえばしごくあたりまえの事のように思えるが、私にとっては保健所のあり方、進むべき方向を示す1つのエピソードと

して心に残った。

なにはともあれ、体制は一応整ったとはいえ、再編整備後ようやく2年を経過しただけで、全てはこれからというのが現状である。今後は、せっかく盛り上がったこの気運をいかに継続的に推進するかが特に重要となってくる。

毎年のことながら、また転勤の4月がやってくる。職員も大巾に入れ代り、結果的に所内のムードにもいろいろと影響が出てくることと思う。この時、最も大切なのがリーダーの対応であろう。我々所員が待望しているリーダー像として、公衆衛生行政に強い医師であることはもちろん、職員にやる気を起させ、全体をまとめて引っ張っていく人、こんな人を考えている。

「鉄は熱いうちに打て」、新体制の保健所機構と有能な職員と、そしてこれ等の組織をうまくまとめていくリーダーを頂きながら私たちの長岡保健所は活動を開始した。